

1 単元 なわとび遊びをしよう（基本の運動・・・用具を操作する運動）

2 単元 の 目 標

- ・進んでなわの操作の仕方を考えたり，友だちのやり方を真似たりしながら，動きの幅を広げようとすることができる。（関心・意欲・態度）
- ・様々な動きを理解し，自分なりの楽しみ方を工夫することができる。（思考・判断）
- ・友だちといっしょに楽しく運動に取り組みむことができる。（思考・判断）
- ・自分の思うようになわを操作したり，自分の体をリズムよくいろいろな動かししたりできる。（表現・技能）

3 単元 について

なわとびは大きく「長なわとび」と「短なわとび」に分けられる。長なわとびは，友だちのまわすなわのリズムにタイミングを合わせて跳躍する運動で，男女の別なく集団で取り組むことができる。短なわとびは，自分になわをまわして跳躍する運動であり，一人で気軽に楽しんだり，何人かで競い合ったりすることができる。このように単純な運動が基本で準備も簡単なため，児童にとっては親しみやすい運動である。

また，なわを回旋させるだけでなく様々な方法で利用することで，運動の種類も豊富になる。

こうした運動を通して，巧み性，全身持久力，敏しょう性，平衡性などの体力を高めることができる。また，友だちと協力して問題解決を図ることの喜びを味わうこともできる。さらに，友だちの良さを素直に認めようとする態度も養うことができる。

4 児 童 について

ほとんどの児童が体を動かすことが好きで，とくにゲームや遊びの要素が大きい活動には大変意欲的である。しかし，どうしても運動が好きになれない子や新たなことには不安感が強く慣れるまでは進んで取り組むことができない子もいる。本学級ではできないことを悪く言うような雰囲気はなく，励まし合うことができるので，苦手意識の強い児童のこともゆっくり見守りながら取り組んでいきたいと考えている。

児童全員が短なわを学校に持ってきており，休み時間になると楽しく遊ぶ様子が見られる。また，なわとび検定カードがあるので，進級するためにがんばって練習する姿も見られる。ただし，短なわの技能には大きな個人差があり，両足跳びが十分にできない子もいれば，2重跳びがスムーズにできる子もいる。

5 指 導 について

これまで児童は個人的に短なわの練習を重ねてきた。もちろん友だち同士の教え合いや，教師のアドバイスもあったが，学級全体でじっくり取り組む機会はなかった。また，苦手意識が強く，休み時間に進んでやろうとはしない児童も見られる。そこで，改めてなわとびの楽しさを味わうとともに，学級全体での教え合いの活動をするので，なわとびに対する意欲をさらに高めたい。

授業では，なわを回旋させることに限らず様々な方法で利用する。投げる，くぐる，

またぐ、引くなどである。こうした利用法から、巧み性、敏しょう性、平衡性などの体力を高める運動を授業の前半に行う。後半には数種類の技の練習場所を設定し、教え合いや学び合いの活動を行う。

本単元では、短なわを使った準備体操を中心にして、主運動につなげられるようにする。

6 指導計画（3時間配当）

時	学習内容	ねらい	関	思	表	評価規準
1	・なわとび体そ うをしよう ・技にちょうせ んしよう	短なわを使った準備 体操を知り、短なわ の様々な利用法に関 心を持つ。 技の教え合いや学び 合いができる。	◎	○		短なわを使った準備体操に意欲的 に取り組もうとする。（関意態） 技のステップカードや補助具を利用 して、技の教え合いや学び合い ができる。（思）
2 （本 時）	・短なわで遊ぼ う ・技にちょうせ んしよう	短なわを使った様々 な運動を楽しんだり 、考えたりする。 技の教え合いや学び 合いができる。	○	◎	○	短なわを使った様々な運動に進ん で取り組み、自分なりの楽しみ方 を考えることができる。（関意態） 技のステップ表や補助具を利用し て、技の教え合いや学び合いがで きる。（思）
3	・長なわで遊ぼ う	長なわを使った様々 な遊びを楽しむ。 技の教え合いや学び 合いができる。	○	○	◎	友だちといっしょに長なわを使っ た遊びを楽しむことができる。（関 意態） 練習している技が上達する（表）

7 本時の目標

短なわを使った様々な運動を楽しんだり考えたりできる。
短なわの技の教え合いや学び合いができる。

8 準備物

短なわ 音楽用CD 技のステップ表 短なわの持ち手 ジャンプ台 リズム太鼓

9 本時の学習過程

学 習 活 動	支援（・）と評価（☆）
○集合整列しあいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の反省を基に学習の進め方を話し合うことで、本時の見通しを持つことができるようにする。 ・リズムカルにできるように、軽快な音楽をかけて行う。 ・動き作りに慣れてきたら、数人組で太鼓のリズムに合わせてポーズを取り、友だちの動きを真似し合うようにする。 ・工夫できた組の例を全体に見せ良い
○短なわを使った準備運動をする。	
○短なわを使った運動をする。	
なわを使ったポーズにはどんなやり方があるだろう。	

○いろいろな跳び方に挑戦する。

グループで技を教え合いましょう。

- ・両足跳び
- ・かけ足跳び
- ・あや跳び
- ・2重跳び

○集合し整理運動をする。

○本時の感想を発表する。

- ・「友だちに教えてもらったら、少しできるようになりました。」
- ・「なわとびの持ち手で練習したら、やりやすかったです。」

ところに気づくことができるようにする。

☆短なわを使った様々な運動に進んで取り組み、自分なりの楽しみ方を考えることができる。(関意態)

- ・跳び方のステップ表を壁に掲示し練習場所の設定をする。
- ・短なわの持ち手や、ジャンプ台などの補助具を用意し、児童が自分で選んで練習できるようにする。
- ・教え合いの活動が活発に行われるように声かけをする。

☆技のステップカードや補助具を利用して、技の教え合いや学び合いができているか。(観察)

- ・練習方法を工夫してできるようになったり、上手に教えることができたったりした児童を賞賛する。